


78円の命

さく 谷山千華





近所に捨てネコがいる。
そのネコは
目がくりっとしていて、
しっぽがくるっと曲がっている。
かわいい声をあげて
いつも私についてくる。

真っ黒なネコだったので、魔法の宅急便から
「キキ」と
勝手に名付けてかわいがった。
人なつっこい性格から
いつの間にか
近所の人気者になっていった。

子ネコだったキキも

2年たった頃にうれしい出来事があった。

赤ちゃんを産んだのだ。

でもキキは捨てネコだったので、

行き場所のない子ネコたちを

近所の鈴木さんが預かってくれた。

毎日のように子ネコを見に行って、

まるで自分の飼っているネコのようにかわいがった。



ある日、突然

子ネコの姿が見えなくなった。

そこで鈴木さんに尋ねてみると、

「〇〇センターに連れて行ったよ」と、
うつむきながら言った。

私はうまく聞き取れず、
何を言っているか
分からなかったが、
たぶん新しい飼い主が見つかる所に
連れて行って
幸せに暮らせるんだなと思った。



がっこうでこのことを友達に話したら

「だろ？それ殺されちゃうよ」といった。

わたしはむきになって言い返した。

「そんなはずない。絶対幸せになってるよ」

殺されちゃうという言葉が
みょうに心にひかかり、
授業中も保健所の事で
頭がいっぱいだった。

走って家に帰ると、
急いでパソコンの前に座った。



「保健所」で検索すると
そこには想像もできない
ざんこなことが
たくさんあった。

飼い主から見捨てられた動物は

日付ごとにおりに入れられ、

そこで3日の間、飼い主をひたすら待ち続けるのだ。

そして飼い主が見つからなかった時には、

死が待っている。



10匹単位で小さな穴に押し込められ、

二酸化炭素が送り込まれる。

数分もがき、苦しみ、

死んだ後は

ごみのようにすぐに焼かれてしまうのだ。



動物の処分1匹につき78円。

動物の命の価値が
たったの78円ではないように思えて
胸が張りさけそうになった。

そして、
とても怖くなった。

残念ながら、友達の話は本当だった。

調べなければ良かったと後悔した。

現実には年間20万匹以上の動物が
こんなにも悲しい運命にある事を知り、
さらに大きなショックを受けた。



動物とはいえ、

人間がかけがえのない命を

勝手にうばってしまってもいいのだろうか。

もちろん人間にも、

どうしても動物を育てられない理由があるのは

分かっている。



一体どうすればいいのか分からなくなった。

キキがずっと鳴いている。

大きな声で鳴いている。

いなくなった赤ちゃんを探しているのだろうか。

鳴き叫ぶその声を聞くたびに、

パソコンで見た映像が頭に浮かび、

いてもたってもいられなくなり眠れない夜が続いた。



キキのかわいい声も

いつの間にかガラガラ声に変わり、切なくなった。

言葉が分かるなら話をしたい。

私はキキを

ぎゅっと抱きしめた。



最近キキの姿を見かけなくなった。

もしかして

キキも保健所に連れて行かれたのかと

一瞬ひやっとした。

それから1週間後、

おなかに包帯を巻いたキキを見かけた。

鈴木さんがこれから赤ちゃんを

産めない体に手術してくれたのだ。

私は心から感謝した。



この先キキも赤ちゃんも

捨てられずにすむ

という安心した気持ちと、

鈴木さん家のネコになってしまったんだ

というさみしい気持ちとで複雑だった。

正直、とてもうらやましかった。

生き物を飼うということは
1つの命に
きちんと責任を持つことだ。

おもちゃのように捨てるてはいけない。

だから、

ちゃんと最期まで育ててやれるという
自信がなければ
飼ってはいけない事を学んだ。



今も近所には何匹かの捨てネコがいる。



私はこのネコたちをかわいがってもいいのかわるか、
ずっと悩んでいる。